

第6回中野市保育所あり方検討懇話会会議録（要旨）

| | |
|-----|---|
| 日 時 | 令和2年12月17日（木） 14:00～15:40 |
| 会 場 | 市役所会議室 42 |
| 出席者 | <p>小林芳文委員、片所年子委員、小野良一委員、宮澤栄一委員、中嶋祐子委員 松矢美知委員、富岡幸子委員</p> <p>7名（欠席：樺澤一夫委員、岡村将翔委員、高木さやか委員、町田真里子委員 黒岩文子委員）</p> <p>【アドバイザー】太田光洋先生</p> <p>【事務局】</p> <p>子ども部長 小林由美、保育課長 戸田修三、課長補佐兼保育係長 堀米一志、 施設係長 豊田正樹、施設係 高藤直樹 5名 計13名</p> |
| 内 容 | <p>開会</p> <p>協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中野市保育所あり方検討懇話会の提言に係る方向性について 事務局説明 <p>(委員)</p> <p>提言をまとめる期限、いつまでを目途にまとめたいのか。 コロナウイルスで会議の開催が心配されるなか、大事な問題について深められる とは、少し考えにくい部分があるので、これからの見通しを教えてください。</p> <p>(事務局)</p> <p>コロナ渦ということで、厳しい状況のなか、お集まりいただいている。 今回の懇話会あたりから、原案を出せればという方向で進めていたが、その前に 一旦、方向性をお示しするという方法を今回はとらせていただいた。 今回、方向性をお認めいただければ、1月には原案を策定、内容をご確認いただ き、1月中の1回で提言書の策定をしたい まとまらないようであれば1月、あるいは2月のあたまで最終的な提言をお願い したい。</p> <p>(委員)</p> <p>予定については、承知した。 コロナウイルスの状況の中、どれだけの委員が集まれるのか、また、どれだけの 意見を集約して、挙げられるか不安になった。 提言書は、年度を越えてはいけないのか。 市長の考え、方向と齟齬があつてはつまらないと思う。焦って提言書をまとめな</p> |

くてもいいのではと個人的に思う。

(委員)

前回の会議の時に、アドバイザーから民間委託は時期尚早ではと意見があった。既成にある保育園を民間委託するのは、とても大変だと思う。よほど良く話し合わないといけないと難しい。早々に結論は難しいのでは。

(委員)

新たに開設した二つの小規模保育事業所は、評判がいいが、民間も良いという意識が市民に定着するには、少し時間がかかると思う。

そういう点も含めて民間へのかじ取りは、そんなに慌てないほうが良いと思われる。

ただ、これまでの懇話会で小規模園の切羽詰まっている現状を、私たちも把握している。ある程度の方向性を考えて出すというのは、そんなに日を置かなくてもできると思われる。

(アドバイザー)

先ほど提案されたスケジュールに変更はないのか。

(事務局)

1月を目途にという考えだが、議会の答弁では年度内としている。

ただ、保育所整備計画もこの提言書に基づいて策定すること、園の統廃合に関しても実施計画に反映していかなければならない。

統廃合については、新年度の夏ごろには方針を示したい思いがあり、早めに提言をいただき、早々に整備計画にも着手していきたい。

(アドバイザー)

議会からは、保育所整備等、急がなくてもいいという意見はなかったのか。

(事務局)

スケジュール的な話には至っていないが、地元議員から保育所整備について、心配のご質問をいただいた。

(事務局)

具体的には、長丘保育園について質問が出た。議員からは長丘小学校に長丘保育園を入れる提案があった。

新しい市長は、小学校を利活用して、子育て支援の充実を図りたいと公約している。

近い将来どこかの学校が子育ての拠点になる、各方面と調整に入っている段階である。

長丘小学校、長丘保育園はどうするのか、今後、長丘については急いで取り組みたい。

永田と豊井については非常に園児が少ない、来年度の園児募集までには、この保育園をどうするかを決めておきたいと考えている。

平野、高丘、松川についてもできるだけ、早く方向性だけでも出しておきたい。

(委員)

建物が古くなってくるのは、わかっているなかで長期計画というか、そういうものはなかったのか。

(委員)

長丘保育園の建て替えは、ある程度近づいている状況はあったのでは。

我々の提言で、長丘を新しく建て替えるのは止め、その代り、たかやしろとひらおかへスクールバス等で、通園する方式に切り替えるとか、あるいは、長丘小学校を、保育園化する。わかるところから、提言でまとめることは、今の計画のなかでできる。

永田についても、小学校の統合に合わせて、豊井保育園と一緒に、ちょうどよいタイミングである。

(委員)

都会でも、株式会社で参入した保育園が次々と閉鎖になっている。利益が出ないと閉園になる。会社はそういう考えのところなので、民間といっても難しい。

(アドバイザー)

民営化も含めて検討することを視野に入れるということをごく残しておかないと結局、新しい事ができないまま先延ばしになってしまう。

市の財政が苦しくなっていく時に民営化せざるをえないということが、突然出てくるよりは、アンケートで、民営化に不安があることが分かったので、その不安をどれだけの時間をかけて解消していくのかを含めて検証して、まったく道を閉ざしてしまうことではない提言にしたら良いと思う。

長丘、永田保育園を見ると、年齢が高くなると、大きい園に行っているのか、園児数が減っている。今、通常の保育所の設置は20人以上となっているし、かつて最低の人数は30人くらいを目安に保育所を設置してきていると思われるのでその辺を検討する。例えば統合していく人数の目安を概ね20人、30人とするか、申し合わせでもいいのでおおよその目安をつくっておくことも必要。

(委員)

民営化の話は、納得してもらわないと次に進まないと思うので、全員がそうだと言わないまでも大多数の方がこれでいこうとならないと、あとから大きな問題がでてくる。丁寧に進めていったほうが良い。

(アドバイザー)

前回の懇話会で、民営化は3年以上かかるのではという話があった。やはり、それくらいの時間は必要なのでは。

アンケート結果から民営化を不安に思っている人が相当多い。公立から民営化に引き継がれた後、よくあるのは公立の保育園のとおりにしてほしいという保護者の意見が強くなり、残る先生たちの意見が強くなり、引き継いだところが主体的にやるのが難しく、そこがうまくいかない。

親同士も意見の分断がでてくるので、事業者が決まったら、どういう方向に変わるのか、可能性も含めて事業者の選定条件にいれると良い。

民間がいけないということはない、十分周知しながら、市の保育状況を考えれば検討せざるをえないということを残しておくこと。

(事務局)

提言を受けて整備計画に反映させていくなかでは、前段で市民の皆さんにパブリックコメントを行い、その後、議会等で、市民の皆さんの目にふれる。その上で整備計画を策定し、その整備計画の実施にむけて、さらに地元、各保育園の保護者の皆さんに説明し、理解をいただきたい。

当然、民間にお願いするにあたっては公募をしなければならない。公募するにあたっては社会福祉法人、学校法人という制限、安心、実績のある団体という括りも考えている。

茅野市、岡谷市のように民営化を喜ばれているところもある。

(委員)

岡谷市は小学校の合併、保育にとっても力を入れている市だと思う。

前回の資料から、公設公営と民設民営がある、公設して民営は考えていないのか。公設して民営では、公募しても手をあげないのか。

(事務局)

公設というと、公的な補助がない。民営化し、民間が建設する場合については、国、県なりの補助がつく。

(アドバイザー)

長丘小学校のような既存の建物を利用するとなれば公設民営も可能では。

(委員)

適正規模、配置というのは各地区のほうで了解を得ると思うが、民営化となった時に、メリットを全面的に出していかないと理解を得るのが難しい、そこは大事だと思う。

小学校の定員が35人になるという方向ができた。ゆくゆくは保育園の定員も変わってくると思うが、小学校の定員を見通して、施設の大きさも含めた保育園の

定員を考えることも大事。

小学校との連携、カリキュラムを大事に、小学校との流れを考えていくのも大事。

(事務局)

同じ中学校区で、二園を同時に民間となると地区の方は、何でこの地区だけという話が当然出る。どちらかは、公立にしないと納得していただけないと思っている。

全国的に見ると小学校区域の中の、ひとつの保育園を民営化している例もある。

(アドバイザー)

公立と地域の割合、バランスというのは、公立の園が中野市の保育の基準になると思うので、公立の保育所に頑張ってもらい地域の園については、保護者が公立か私立を選べるという設置の仕方がいいと思う。

あり方検討懇話会ですが、どのくらいの頻度で計画を見直していく機会があるか、決めておいたほうが良い。

例えば5年ごとに検討するとか、市の他の計画と関係してくると思うので、それと合わせて計画的にやっていくと、なんで今頃という話にならない。

中期・長期計画があると思うのでそれに合わせて見直されていくのがいい。

(事務局)

保育所整備計画は来年の3月31日までの期間になっている。

整備計画を策定したのが、前段の懇話会が平成18年に行われ、提言をいただいて平成19年度に整備計画を策定した。その計画が3月31日のできるの、新たに懇話会を開いている。

現計画は長丘保育園の整備まで計画しており、平野、高丘、松川は計画には一切載っていない。それを新たな計画に反映させていくには、新たな懇話会を開き、策定していきたい。

先ほどご指導いただいたように例えば、10年後にローテーションでいければと考えている。

(アドバイザー)

10年後にやるとなったら、ここはもう建替え直前ということはないのか。

そういうところがあるなら、今回の提言に入れていけば良い。

(委員)

昭和57年以降の建物は、耐震は大丈夫。それ以前は、耐震強化をしなくてははいけない。

それは、わかるのですが、民間委託も加わると難しくなる。

(事務局)

前回の整備計画が昭和 40 年代以前の保育園を整備しようという計画になっている。今回は昭和の年代の残っている未整備の園について整備計画をつくっていかうということである。

そこに少子化ということも入ってきてしまったので、永田、豊井は比較的新しい保育園だが、こちらにも計画に載せられればと思っている。

民営化については、前回の提言にもふれられており、研究をしていくことになっている。今まで、市のほうでも民営化は検討しており、それは完全に民営化なのか、公設民営なのか含めて議論はしているところだが、保護者のニーズも多様化してきており、最近、小規模保育事業所ができたこともあるが、選択肢が欲しいという意見がある。

公立だけではなく、民間の良さも見てみたいという意見や、保育所に入所するには理由が必要ですが就労していない、できないという状態で、小学校入学を考えて集団生活をさせたいという方もおり、そうすると中野市の選択肢は、幼稚園か認定こども園のどちらかしかない状況で、そのへんは皆さん悩んでいる。

特に都会から転入されてきた方は、幼稚園、認定こども園に魅力を感じている方もおり、施設の建て替えにあたって民営化、認定こども園化という考えもあるが、保護者、地元の同意は必要。そこは丁寧に時間をかけてやっていく部分だと思っている。逆に保護者、地元との懇談会等、時間を持ちながら、より皆さんの理想に近い園ができれば公立でも、私立でもいいと思う。

コロナの影響もあり、苦しい財政事情なのでなるべく最小の経費を考えている。

(委員)

市長の考えを聞きながら考えていかないと、私たち委員もどう答えていいかわからない。

(アドバイザー)

この懇話会の役割は、アンケートで市民の声をきいて、その意見と我々の知識を合わせ踏まえて考えたときに、ある程度大勢の方が、その判断は妥当だという提言は必要。そこには、今、子育てをしている人だけではなくて少し先を見て考えることが必要で、例えば公立園 1 園を認定こども園にした場合、下の子が生まれて育休を取ると、認定こども園なら、一旦やめる必要もないが、公立園だと一旦退園してくださいという問題が出てきたりする。この懇話会は、市長の意向に沿うということではない。

(委員)

少人数の園では、ドッジボールもできないと聞いた。

子ども達のことを考えたら、統合も仕方ないと思う。メリット、デメリットを考えてもメリットのほうが子どもにはあると思う。

病児病後児保育は、病気の時だからこそ、自分の子どもを良く見てあげたいとか、

見られるような子育て力というか、子育てを楽しめるような保育園づくりも大事だと思う。

一時保育のリフレッシュ等を活用しながら、入園できるような応援をしてあげたい。

(アドバイザー)

これから子育て支援の対象が低年齢化していくと思われる。今は、0、1、2歳がきているが、だんだん1、2歳が減って行って0歳、赤ちゃんが生まれる前を対象にした支援という支援センターみたいなところが必要になってくると思われる。

すると、家が近いのは良いことなので空いた保育園を支援センターとして使うことも考えられる。

(事務局)

提言の民間活力導入の表現を積極的にいくのか、もう少し慎重に検討すべきという表現を加えながらもりこむのか、あるいは導入にむけては地元、保護者との慎重な説明をお願いするというような表現になると思うが、いかがか。

(委員)

保護者の意見もあったということを市民の皆さんにお示したほうがいいのでは。我々は、直接的に保護者ではないので。

(委員)

民営化の話はたぶん保護者の方は、わからないので説明はしっかりしてくれたほうが良い。

(委員)

メリット、デメリットをしっかりと示していかないと判断のしようがない。

(アドバイザー)

前回の提言書にも、研究すると書いてあるそうなので、もう少し検討が必要かと。市民に説明し、話し合うとか、情報共有は必要で、うまく提言にもりこめたら良い。

(委員)

世の中の進み方が早いので、10年といわずに、中期計画というわけにはいかないのか。10年たったら世の中がとても変わっている。

(アドバイザー)

計画は10年でもいいと思うが、途中で見直し、中間評価でも良い。

(委員)

前回、民営化についても研究するという提言があるとすれば、ある程度それにそくした内容で出していく必要があると思う。

事務局からすると明らかに民間にすると、運営にしても、建てるにしても有利だという財政的な説明の大きな根拠になると思うが、あまりそれを前面に出すと良くないので、それ以外に、新しくできた小規模保育事業所の魅力等をアピールし、保護者が選択肢を求めているということから、小規模でもこれだけ魅力的な保育をしているところがあり、民営化すると選択肢が増えるという、良い面を提言のなかであげて、公立も地域にあるけども、それ以外に民営化された私立も選べるような保育体制を、市としては考えているというイメージが良い。

(事務局)

多様なニーズに合わせた保育サービスの充実ということから民営化へ入るイメージでいる。

今まで説明する機会もなかったので、一般に民間委託というと、いつ、倒産するかわからない心配があると思うが、信頼のある学校法人もあり、具体的に話をしていけば理解してもらえると期待はしている。信頼と実績のある団体へ公募を通じてとなるので、そういった説明をしていきたいと考えている。

(委員)

データの出し方について、メリットを文章であげたうえで、参考資料的にデータをだすと納得できると思う。

(委員)

児童手当が世帯で高い人の収入によって決まっていたものが家庭内で夫婦合算の金額で一定金額以上になると共働きの夫婦はもらえなくなりますというような話があるなかで、その費用は子育てに関わる部分にまわすという話ですが、そういったお金は中野市に入ってくる見込みはあるのか。

(事務局)

おそらく都会を想定していて保育所整備とか保育士確保といったところに補助金として出すかたちになると思われる。

具体的に国から情報はないが、市への財政的な支援ではなくて国は民間にシフトしている傾向があり、民間には手厚く補助がある。

おそらく、公立保育園にはまわってこないと思われる。

ただ、中野市で待機児童が発生したりすれば何かのかたちで補助はあるかもしれない。対策はしなければならないが。

(事務局)

児童手当で1,200万という報道があると思うが、特例給付といって、所得の多い

人が5,000円だけもらえるという制度だが、それが廃止になるということで今、合算にするのか主たる生計の人にするのか決定されていないようである。今のところ合算ではなさそうなので、そうすると一人で1,200万というとかなり所得のある人となってくる。

まだ、国から示されていないのでわからないが、待機児童にまわすと言っておきながらどうなるのか。

(事務局)

表現を考えながら、あるいは条件を付すなり、地元への説明を慎重に進めることとかそういった言葉を整理し、1月中にまず、事前配布、そこで修正を行うか、こちらで調整する。

懇話会の開催は、最低でも1回、多くても2回以内にしたいと考えている。今日のご意見を参考に原案を作成し、まずは事前配布でお示ししたい。

閉会

次回は1月29日(金)開催予定